

近年の異常気象から学ぶ

「いま、私たちにできること」

近

年、災害をもたらすような異常気象が全国的に相次いで発生しています。平成29年7月の秋田県豪雨は、私たちの記憶にも新しい出来事として残っています。

そして、平成30年も異常気象が頻発しました。2月には北陸地方を中心に日本海側で大雪、7月には西日本を中心に豪雨となりました。また、夏は全国的に記録的な猛暑、秋になってからは立て続けに発生した強力な台風が猛威を振るい、全国各地で被害が発生しました。

自然は私たちに恩恵をもたらす一方で、時には太刀打ちできないほどの脅威となることがあります。こういった異常気象が頻発している原因は何か。その原因を探るために、気象予報士である村木祐輔氏に話を伺いました。



村木 祐輔 氏

秋田市出身の気象予報士。平成25年から株式会社ウェザーマップに所属し、NHK「あさイチ」などに出演。平成28年からNHK秋田「ニュースこまち」に出演中。美郷町で平成29年に開催した「水の郷シンポジウム」には講演者として出演。



後三年駅周辺



六郷東根地区

【異常気象】

一般には、過去に経験した現象から大きく外れた現象または状態のことを言う。気象庁では、原則として「ある場所(地域)・ある時期(週、月、季節等)において30年間に1回以下の出現率で発生する現象」を異常気象と定義している。

▲秋田県豪雨では美郷町でも被害が発生しました

村木予報士による解説

「近年の異常気象と今後の対策について」

Q 最近の天候について

ここ数年で、豪雨や猛暑といった極端な現象が目立つようになってきたのは間違いありません。雨ひとつとっても、夕立のような大雨は以前からありましたが、近年は1時間に30mm以上の大雨が降ることが増えてきています。

Q 異常気象の原因について

一概には言えませんが、地球温暖化が一つの大きな原因であるということは言えると思います。

実は、日本における年間の平均気温が100年で約1℃上昇しています。たった1℃と思われるかもしれませんが、ここで問題なのは、「1℃上昇」ではなく「100年で」ということです。これまでも地球の温度はさまざまな自然的要因で上昇していましたが、1℃上昇するために約2000年という期間を要していました。それが現在ではたった100年で1℃上昇しているため、気温上昇のペースがかなり速まっていることが分かります。自然的要因だけでは説明がつかないため、人間活動に起因するものが大きく関わっていることが言えると思います。

■強力な台風

8月に発生した台風21号は、「非常に強い勢力」で日本列島に上陸しました。これは25年ぶりのことで、地球温暖化を象徴している出来事となりました。

地球の温度上昇のペースに比例するように、海面水温も同じくらいのペースで上昇しています。台風は海上からの暖かく湿った空気をエネルギー源としているため、海面が暖かければ暖かいほど台風は発生しやすく、発達もしやすいです。最近の研究では、今後強い台風の発生数が6.6%増加、台風に伴う降水量は11.8%増加するという結果が出ています。

■猛暑と大雨

埼玉県熊谷市で日本歴代最高記録となる41.1℃を、横手市では秋田県歴代記録で2番目の高さとなる38.6℃を記録するなど、ことは全国的に猛暑となりました。全国の気象官署（地方気象台などの気象観測機関）153地点のうち48地点で過去最も高い気温を記録し、夏の平均気温は東日本で統計開始以来最も高い記録となりました。

地球温暖化は猛暑だけでなく、「大雨」にも関係してきます。地球全体の温度が上がると空気中を含むことのできる水分量が増加し、加えて上昇気流が顕著になるため、大雨や大雪になりやすいです。ことしの7月には西日本を中心に広範囲で記録的な大雨となりました。11日間の総雨量が四国地方では1,800mmを超え、秋田県の年間降水量の平年数値である1,686.2mmを上回るものとなりました。

Q 地球温暖化防止のために

対策はいろいろありますが、自分でできることを見つけて、自分ができる範囲でやることが大切だと思います。例えば、車の排気ガスが地球温暖化に影響していると言われています。ガスの排出量を減らすために、移動先が近場であれば歩いて移動するか自転車を使用する、遠方であれば相乗りを選択するといったことができると思います。

Q 災害発生時に慌てないために

防災対策の一つとして「防災グッズ」をあらかじめ準備しておくことが挙げられると思いますが、どうしても難しく考えがちです。ここで重要になるのが「備えること」に対してハードルを高くしないことです。例えば、キャンプが好き人は自宅にテントや寝袋などのキャンプ用品があるかと思いますが、これらは災害時にも活用することができます。このように、普段から使っている物を災害時にも活用できないかと視点を変えて見てみる、もしくは災害時を意識しながらそれを使ってみるのも良いと思います。